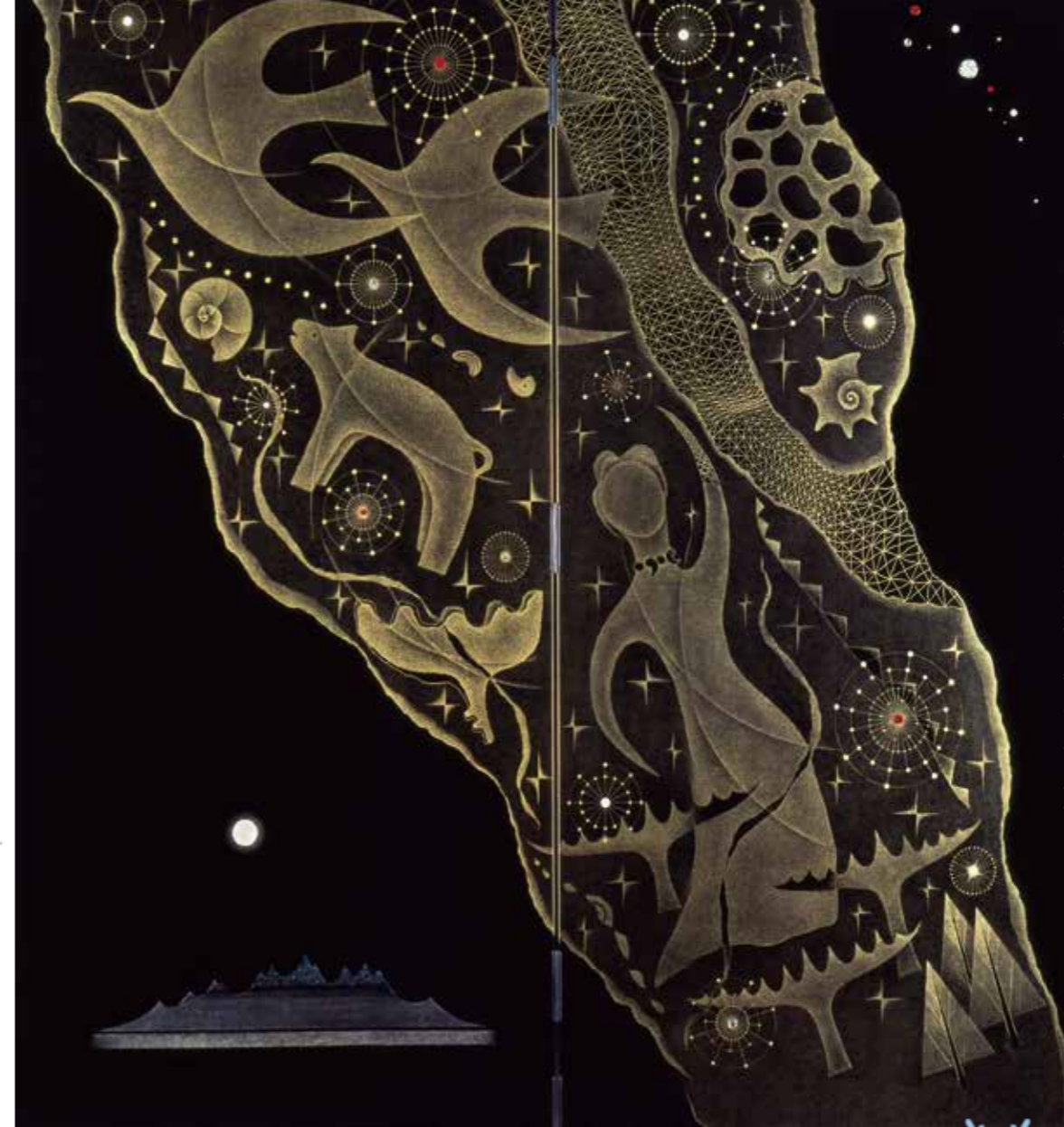


冬

芸術・食は秋のみにあらず！
の安曇野を旅しよう

今年も残りわずか。旅する機会が少なくなった今だからこそ、近くて安心な人気観光地・安曇野を旅してみませんか？



安曇野高橋節郎記念美術館 真冬の澄み切った夜空

漆の芸術家・高橋節郎は、少年期に過ごした安曇野の自然を創作の源として、詩情豊かで幻想的な作品世界を生み出しました。真冬の澄み切った夜空にちなみ、少年時代に見上げた満天の星空を独自の感性であらわした漆屏風「星空円舞」せいくうえんぶ。冬の夜空を思い浮かべ、時空を超えたロマンあふれる作品をご堪能ください。



安曇野高橋節郎記念美術館 (TEL81・3030)

アートラインマップでお得に

安曇野から白馬まで18館の個性豊かなミュージアムが加盟する「安曇野アートライン」。安曇野市観光情報センター(4頁参照)などで入手できるアートラインマップには、加盟施設の入館料の割引券やプレゼント券が付いています。また、12月19日までスタンプラリーも開かれています。



●ピックアップ
～かんたん沈金講座～
溶剤と金色の粉を使いCDケースサイズの漆の板を彩ります。出来上がった作品は、当日持ち帰り可。図案の用意もあるので、気軽に参加できます。
参加費：1,100円
所要時間：1～2時間
※最終受付は午後3時



新雪の槍ヶ岳(槍ヶ岳山荘付近にて)

2

田淵行男記念館 山を離れ 山を想う季節

山を遠ざかって山を眺める季節。山を離れて山を想う季節。そう冬を語ったナチュラルリスト・田淵行男。開催中の写真展「私の山岳写真」(2/13まで)では、写真だけでなく、撮影方法も文章で紹介しています。山や生き物など、自然の撮影テーマが豊富な安曇野。写真展で、田淵の山への想いと技法を知れば、見慣れた冬の山々も違った視点で撮れるかもしれません。

●ピックアップ～人気のオリジナルグッズ～
受付の前には、雪形マップ、田淵の言葉「一山百楽」いちざんひゃくらくが記されたトートバック、木札、手ぬぐいなどの人気グッズが並んでいます。山好きな地元客はもちろん、登山客も山行の思い出に買い求めに来るそうです。
岡田淵行男記念館 (TEL72・9964)



3

碌山美術館 暖炉を眺め 静かな時に浸る

四季折々の表情が楽しめる碌山美術館。初夏の新緑やツタの紅葉が知られていますが、新雪に覆われた館も絶好のシャッターチャンスとなります。また、グズベリーハウスのダルマストーブや創設時に笹村草家人が監修した暖炉など、細かな意匠のファンも多く、揺れる火を眺めながら穏やかな時間を過ごせます。
年始(1/1～)も開館しています。



企画展開催中 彫刻家 篠田守男 -Subconscious- (1/30まで)
岡碌山美術館 (TEL82・2094)

●ピックアップ～話題の人たち～
渋沢栄一の孫・敬三(民俗学者)も館の設立に尽力した一人。のちに顧問として創成期を支えました。また、今年は人気グループSixTONES(ストーンズ)のカレンダーの口ケ地として話題になりました。

ようこそ 冬の美術館へ

皆さんは、博物館・美術館の数が多い都道府県をご存知ですか？実はなんと、長野県が第1位なんです。県内345館、その中でも安曇野市だけで約20館ほどの施設があります。さまざまな特徴を持った美術館がありますが、どの館も安曇野に寄り添い、自然と調和していて、思わずカメラを構えて撮影したくなる、そんな良さがあります。冬の美術館は、比較的人が少なく、ご自身のペースでゆったりと鑑賞していただけたらと思います。感染症対策も十分気を配っています。信州の冬は厳しいですが、芸術に触れ、心を温めていただければと思います。



学芸員(安曇野高橋節郎記念美術館)
富永 淳子さん

